第７４回全国英語教育研究大会全英連埼玉大会に参加して

徳島県立阿波高等学校　藪下　千佳子

１　はじめに

令和６年１１月１５日(金)、１６日(土)の２日間、越谷サンシティホールと獨協大学で開かれた全英連埼玉大会に参加させていただいた。「“シン・英語教育”～four skills から skill integration へ、そして competency の育成へ～」を大会テーマとして、グローバル化・高度情報化が急速に進展する変化と挑戦の時代に生きる児童生徒にとって必要な英語教育とは何かを、小中高の学びの観点から探る、というものであった。

私は教諭として教壇に立ち続けて今年で１４年目を迎えたが、生徒の英語での発信力の育成、言語活動の質の向上、スローラーナーへの支援、効果的なＩＣＴの活用法等について、探求しながら授業を行っている。今回の大会で学んだことの中には授業の改善のヒントが多くあったため、その内容を紹介させていただき、共有していただけたらと思う。

２　全体会について

(1) 基調講演は、演題が「“シン・英語教育”～four skills から skill integration へ、そして competency の育成へ：学習科学の立場から～」で、講師は一般社団法人教育環境デザイン研究所理事、東京大学生産技術研究所リサーチフェローでいらっしゃる白水始氏によるものであった。以下、当日のスライドを基に主な内容を紹介させていただく。

（ア）　現・英語教育について

・英語は「やればできる教科」なのは、学習者が日常的には英語に触れにくい環境だから。(すればするほど伸びる)

・第二言語学習者なりの学び方がありそう

- Total Immersion からインプットの重要性を理解し、やり取りを通した学習の良さを取り入れつつ指導することが重要である。
- 例えば「聞くこと」一つをとっても、その結果を話し合い、音・文法・意味を連携させる学び方がある。(four skills は切っても切り離せないほど絡み合っている)

（イ）　人類にとっての「ことば」の意味について

「サピエンス全史」(ハラリ,2011)によると、

1. コミュニケーション
2. 記憶、思考、抽象化

1.と 2.の二つを合わせると、「対話しながら考える」教育が言語学習でやれると良い。対話には内容が必要。したがって、コンテンツをもとに対話しながら考える CLIL(Content and Language Integrated Learning)はきわめて有望である。

3. 共同幻想、「虚構」

1.～3.を合わせると、「自分の視点を言語を通して再吟味する」教育が有効。

（ウ） シン・英語教育について

CLIL 路線

世界中で試されているのが協調学習(collaborative learning)であり、人の自然な学び方から考えて、求めたい前向きな学びを引き起こすことができる。

●答えは自分で作る ●答えは話し合いながら考える ●答えが見えてきたら、次の問いを作る●答えや答えの出し方について、人との違いに価値を置く(違いが学びの出発点になる)

「知識構成型ジグソー法」の紹介： エキスパート ⇒ ジグソー ⇒ クロストーク の流れ

＜対話しながら考える学び＞

その中で自然に four skills は integrated する。(話しながら考える、聞きながら考える、書きながら考える、読みながら考える)

全てを紹介することはできないが、以上が全体会の主な内容である。白水先生のお話の中では TED Talks の番組内にある”the birth of a word ”という動画も視聴し、乳幼児が言語を習得していく過程も共有した。Total Immersion や人類にとっての「ことば」の意味の視点から言語学習を考えたとき、「コミュニケーションのために学ぶ」だけでなく、「コミュニケーション(やり取り)から学ぶ」という点がやはり重要であると感じた。

(2) 高等学校 実演授業

発表者は、埼玉県立伊奈学園総合高等学校の降籏康善先生で、単元名は Lesson 9 Extinction of Language、単元の目標は、「教科書の語彙・内容を理解した上で自分が少数言語話者になった場合の状況について考える」であった。生徒たちは MetaMoJi を活用し、先生の発問に対するそれぞれの考えを入力していた。そして全員が入力している内容をオンラインでスクリーンに映し出し、各自の進捗状況が確認できる状態にしていた。意見が出揃ったところで先生が数名を指名し、入力した内容について英語で発表させ、全体で共有していた。

＜授業の流れ＞

1. How can we help prevent language extinction? に対して small talk を行う。
2. What is lost when a language disappears?
   - 一人２つずつこの設問に対する考えを MetaMoJi に入力する。
   - 生徒の入力例：human rights to speak mother tongue, make colorful world, tradition など
3. 先生が MetaMoJi に配信した Thinking Sheet を活用して、それぞれの言語について可能になることを共有し、生徒の思考を導く。

Endangered languages	Global languages
・Protect tradition	・grow career ・learn latest technology ・ Global languages can lead to protect minor languages.

全てを書き留めることはできなかったが、以上が生徒の考えの一部である。

4. 上記 1.～3. を基に、考えを整理して下記の選択肢①～③のうちから１つ選び、考えをまとめて発表する。

① Would you choose to continue learning and using Japanese?

② Would you opt to be educated mainly in a global language like English?

③ Is there any(a) way to balance both approaches? If so, how would you do it?

（③については Hint words list を提示してサポートしていた。）

発表時には、以下の表現を提示し、サポートしていた。

I'd choose to ～. / I'd opt to be ～. / I think it's possible ～.

さらに、such as ～　を追加質問し、具体を深めさせていた。

(3)　分科会①

２日目の会場は獨協大学だった。私はまず、埼玉県立上尾高等学校の山形風先生による「他者とのやりとり・意見交換を充実させ、自分で考える力を育む授業実践」に参加させていただいた。山形先生は今回の大会テーマのキーワードである competency を踏まえて、授業の中で「自分とは違う意見を尊重できる力」「自分の意見を批判的に見る力」を育て、「自主的に考える習慣を身に付けさせる」ことを目指していらっしゃった。これらの力の獲得は「他者とのやり取り」「他者からの意見・質問」によって実現できるとのお考えで、英語でのやり取りを授業で取り入れられていた。具体的な取り組みは以下の通りである。なお、使用教材は “思考力・発信力を鍛えるための Logical English Reading Level 1” 河野周著で、本冊と別冊の両方を使用していた。

(ア)　身近な話題についてのやり取り

帯活動として提示されたテーマについてペアで１分ずつやり取りを行う。準備時間を設け、″Start-up Speaking シート″(資料①)を用いて発言内容をメモで整理させ、足場かけを行っていた。また、山形先生はペアでの１往復のやり取りだけでなく、意見をクラス全体で共有する際にペアの相手の意見についても聞き、活動に強制力を持たせていた。

資料①

Start-up Speaking

Today’s Question

What is your favorite song?

My Answer　自分の答え

My favorite song is (　　).

Hints:
- Why?　なんで？
- How often do you listen to that song?
  どれくらいの頻度でその歌を聞きますか？
- When did you listen to that song for the first time?
  初めてその歌を聞いたのはいつですか？

etc.

My Partner’s Answer　相手の答え

(　His　/　Her　) favorite song is (　　).

And
...(
).

（イ）自分の意見を作る活動、伝え合う活動

中間発表の際に、上記の活動についてはＡＲＥＡのような型を決めて行ったほうが良いのではないか、という助言があったそうで、使用教材に載っている文章をＡＲＥＡで分析し、論理的な構成を意識させたそうだ。そして、自分の意見を書く際にＡＲＥＡの型で英作文をさせたそうだ。トピックと生徒自身の相性の良さは、生徒が書ける量には繋がったが、やはり書く技術については課題が残ったようである。

（ウ）自分が作成した意見を用いて、意見交換をする。

自分の作文について、意見交換をペアで行い、上記の活動と同様、１往復のやり取りで終わらせずに互いに追加質問させたそうである。

山形先生が課題だと感じていることと、助言者である神田外語大学の柴原智幸先生によるコメント：

Ｑ１　自主的に考える力をどのように評価すれば良いか。

柴原先生：生徒が書いた英文の内容と語数で評価すると良い。”Idea box”（意見を書くための key word が別冊に掲載されている)以外の語彙を使っていたら加点するなど。

Ｑ２　生徒から、発表をなぜ英語でやるのか？と聞かれたときの返答に困る。

柴原先生：英語の授業だから、と割り切って良い。

Ｑ３　今回は３年生の少人数選択授業での実践であったが、必修科目でも同様のことができるのか。

柴原先生：やり取り練習を簡略化して取り入れると良い。発表やスピーチの際は十分なクオリティコントロール(英文が文法的に正しいか、生徒の発話が声量的にきちんとできているか)が大切。そうしなければ「文法的に誤った英語」や「問題がある形での発話」を「定着」させることになってしまうかもしれない。昼休みや放課後の時間を使った個別指導が望ましい。やり取りの活動における足場かけについて、生徒の取り組みやすさを重視してしまっているのは良くない。Hints 等を示し過ぎると生徒のオリジナリティがなくなってしまう。スローラーナーの立場からすると、話をどこから切り込めば良いか分からない生徒もいるため、サポート加減が大切。

(4)　分科会②

２つ目の分科会は埼玉県立伊奈学園総合高等学校の吉田友樹先生による「教科書を活用した４技能５領域の統合的言語力と資質・能力向上を目指した授業について」をテーマに行われた。私がこの分科会を選んだ理由は、「教科書を活用した」に興味を持ったからである。吉田先生の授業では、最終ゴールとなる言語活動に向けて丁寧で適切な足場がけが十分に準備されており、質の高い言語活動の実現に繋がるヒントが盛りだくさんであった。以下で紹介させていただく。

実践の概要

目的：コミュニケーションを図る資質・能力の育成

教材：LANDMARK Fit English Communication Ⅲ

方法：統合的な言語活動

最終ゴール:以下の問いについて、英語で意見のやり取りをする。

Question: If you were the last speaker of Japanese, would you teach Japanese to your children?

第１関門：教科書の内容を Retelling できる

第２関門：話題について知識を深め、思考を整理する。

→ 最終ゴールへ

〈授業の流れ〉

① 導入、語彙、本文理解のためのＴＦ問題などでインプット

（Ｔの数で理解状況を把握し、Ｆの解答の文は間違っている所を訂正させる。）

② 本文理解のためのＱ＆Ａ（丁寧に作問するようにしている）

ワークシートでＱ＆Ａに取り組んだ後、生徒同士ペアで何も見ないでＱ＆Ａに取り組んでいた。ペアの相手を変えながら複数回、互いにＱ＆Ａを行っている動画を見た。

内容が十分に理解できた生徒は自ら質問を作り出して尋ねていた。

③ Retelling Worksheet を用いて retelling(=第１関門)

上記①②の活動は retelling への足場がけであった。内容や語彙が十分 intake できて初めて　retelling を始めていた。

④ You tube 動画視聴(テーマについて知識を深めるために)

“Identity and Values”というテーマの動画を言語とアイデンティティを結びつけるために視聴し、ワークシートでディクテーション活動に取り組む。(日本語訳付き)

⑤ 教師によるプレゼンテーション(テーマについて知識を深めるために)

生成ＡＩで“日本語とアイデンティティの関係”とプロンプト入力し、”Keigo(敬語) helps to shape our values”という英文をリスニングさせ、メモを取らせる。

敬語がある → 敬語使う → 年上を敬う、の流れを理解させる。

⑥ 生徒同士のインフォメーションギャップ活動(テーマについて知識を深めるために)

英語を学ぶ利点について、考えを深めるために“To access information”と”To expand future options”という２種類の英文をペアで音読し、You said ～. で互いに内容を確認する。

⑦ 授業ワークシート(テーマについて知識を深める)

⑥で共有した情報について先生やクラスメート数名が retelling し、他の生徒は聞きながらワークシートにメモを取る。

⑧ スモールクエスチョンに答える(思考の整理のために)第２関門

Q1 What can children do by learning Japanese?

Q2 What can we do by teaching Japanese?

Q3 What can children do by learning a major language?

Q4 If you were the last speaker of Japanese, would you teach Japanese to your children? Why? Why not?

⑨ スピーチの型を教える=与える(コミュニケーションに向けて)

●日本語を教えるという意見：

<u>If I were the last Japanese speaker, I would teach Japanese to my children.</u>(自分の意見) I understand <u>the advantage of learning a major language.</u> Explanation (相手の立場を尊重) However, I believe that learning Japanese would be more beneficial to my children.(自分の主張) It’s because … For example …

●日本語を教えないという意見：

<u>If I were the last Japanese speaker, I would not teach Japanese to my children.</u>(自分の意見) I understand the advantage of learning Japanese. Explanation (相手の立場を尊重) However, I believe that learning a major language would be more beneficial to our children.(自分の主張) It’s because … For example …

●日本語と主要言語の両方を教える意見

If I were the last Japanese speaker, I would teach both Japanese and a major language to my children.(自分の意見) Firstly, by learning Japanese …（理由１)For example …（例１)Secondly, by learning a major language …（理由２）For example …（例２）

⑩ Lesson 9 最終ゴール

Q1 By learning Japanese, what can children do?

Q2 By teaching Japanese, what can we do?

Q3 By learning a major language, what can children do?

Q4 If you were the last speaker of Japanese, would you teach Japanese to your children?

Points

To protect culture / To build identity / To access more information / To expand future options

*Take notes of the key words of your answer below. Do not write sentences.

この誌面ではページ数の関係で吉田先生からいただいたスライドの資料など全てを掲載できなかったが、先生の授業では上記の一つ一つの活動に取り組ませる際、足場かけが丁寧になされていて、大変参考になった。

３　所感

２日間参加させていただき、授業で行う言語活動の重要性を改めて感じたとともに、その実現に向けて生徒に適切で十分な足場かけを行うことも必要であると感じた。そうすることで、スローラーナーであっても段階的に達成感を味わうことができ、少しでも学習意欲が高まるのではないかと思う。分科会②では最後、質疑応答の時間に吉田先生に Lesson ごとの最終的な言語活動(ゴール)はどのように設定しているか質問してみた。先生からは、本文に関連した内容について生徒が I ～.や We ～.で答えられるような問いを設定することを心がけていること、また時には AI を使ってアイデアを参考にしているという回答が返ってきた。その Lesson の Key Concept は何かを考え、ベースを学年で共有することも重要であるということであった。各 Lesson で生徒に身に付けさせたい力を考え、年間を通してバランス良く技能統合ができた言語活動を行えるよう、年度当初に計画をしておくことが大切であると思う。生徒が英語でのコミュニケーションを楽しむ姿をイメージしながら言語活動を組み立て、それによってクラス内で生徒がより良い人間関係を構築し、英語学習へのモチベーションを上げられることが私の理想である。それを実現できるよう、今後も勉強を続け、生徒とともに成長していきたい。